ジンベエザメの飼育成功は世界中の水族館から注目されている。飼育館は世界で沖縄と大阪のみ。

シリーズ

沖縄の海の生きもの

かりゆしの海～沖縄の世界一、日本一

国営沖縄記念公園水族館長　内田詮三

沖縄の海に住む多彩な生きもの達を御紹介してきたが、九州以北とは如何に異なるかお分かり頂けたであろうか。これは南海という位置と、巨大暖流、黒潮による豊饒の海がもたらす種の多様性を示している。しかし、新しい顔ぶれが続々と登場するのは、まだ調査が行き届いていないことをも意味しているのだ。

海洋博時の水族館開館以来24年間に達成した、これらのウンジャミの申し子達にまつわる世界一と日本一の記録を御紹介しよう。ギネスブック風になりそうであるが御容赦の程を。

世界一

① サメ・エイ類の世界未飼育種10種の飼育に成功：最たるものは最大のサメ・ジンベエザメ、最大のエイ・マンタを水族館展示魚となし得たことだ。その他飼育が難しいハビレ、ヨゴレの大型遊泳性のサメ、エイではトンガリサカタザメ、ウシエイ、ツカエイ、ヒョウモンオトメエイ、オグロオトメエイ、ウシバナトビエイも世界最初の長期飼育成功種である。

オニイトマキエイ（マンタ）を飼育しているのは世界で沖縄だけだ。

② サメ・エイ類の飼育最長記録：該当種はネムリブカ・22年、オオメジロザメ・22年を筆頭に、オオテンジクザメ・21年、ヤジブカ・15年、トラフザメ9年であり、その他ガラパゴスザメ、ハビレ、トラザメも世界最長飼育期間を達成している。エイでは、ウシバナトビエイ・24年、ウシエイ・23年、オニイトマキエイ・9年、トンガリサカタザメ・7年が記録達成種だ。

③ 世界初の水槽内繁殖：サメ類ではトラザメ、ネムリブカ、オオメジロザメ、メジロザメ、トラザメの5種、エイ類ではマダラトビエイ、ウシバナトビエイ、シノノメサカタザメ、トンガリサカタザメ、ウシエイ、ヒョウモンオトメエイの6種が飼育下で繁殖した。

この①～③の成績により、記念公園水族館は、サメ・エイ類の飼育分野で世界の水族館中のNO1であると国内外で認められている。

④ 標識ウミガメの太平洋横断：北アメリカ西岸沖にはアカウミガメが生息しているのに産卵はしないため、日本産のカメが太平洋を渡るのでは?と推定されていた。これを実証したのが沖縄のアカウミガメの幼体で、1985年に水族館が標識放流した個体が2年4ヶ月後にサンディエゴ沖で捕獲された。世界最初の本種の太平洋横断確認例となった。

産出直後のトンガリサカタザメの新生仔、飼育、繁殖共に世界初。

⑤ マナティー双子の出産：アメリカマナティーには双子が稀にできると推定されていた。しかし、双子の出産観察例は野生状態、水槽内共になかった。1987年、水族館で飼育中のメヒコが双生児を出産、世界最初の双子出産例となった。

日本一

① ミナミバンドウイルカの飼育：このイルカは海洋博用に捕獲されたのが日本新記録（1974年）で、本種のイルカショーは日本では沖縄のみ。

大平洋をカメと共に横断した標識。アメリカウミンチュがサンディエゴ沖で捕獲、前肢から取って送ってくれた。

② 水槽内繁殖イルカの最長生存年数：プール生まれのリュウは今年で21才となり日本における記録を日々更新している。

③ バンドウイルカの漕内繁殖率：野生動物保護の観点からも動物園水族館においては飼育動物数の何%が飼育下繁殖個体なのかが、飼育技術の指標として問題にされる。日本での本種を飼育している29水族館の繁殖率（繁殖成功新生仔数÷飼育個体総数×100）について上位3館をあげると記念公園水族館42%、鴨川シーワールド33%、アドベンチャーワールド26%で、沖縄が断然トップである。

④ タイマイ、アオウミガメの水槽内繁殖：どちらのカメも飼育下の繁殖は日本最初例で、タイマイ・1994年、アオウミガメ・本年の産卵、孵化である。

⑤ コブハクジラの調査：本種は大変珍しいクジラで日本近海での出現確認は南西諸島だけである。その標本7頭中の6頭が水族館の調査によるものである。

出産直後のバンドウイルカの赤ちゃん。

沖縄の日本一は、枚挙にいとまなく、この他、マナティーの漕内繁殖・オオテンジクザメ、イタチザメ、カマストガリザメ、ガラパゴスザメ、カンムリブダイ等の初飼育例・アミメトビエイの日本唯一の標本・ホオジロザメ、タマカイ、ダイオウイカの日本最大標本等である。

何と言っても水族館の近くの海に多種多様の海生動物が生息しているのが強みだ。多くの海の生きものあっての「かりゆしの海」、この海を駄目にしてはなるまい。

海を生かすも殺すも人間次第である。

アオウミガメの交尾、本年5月初旬に交尾、8月には約200匹の仔ガメが孵化した。